

平成 24 年 9 月 3 日

伊賀市長
内保 博仁 様

東部地域住民自治協議会
会 長 今高 一三

震災瓦礫の受け入れについての要望書

この度の東北大震災による多数の犠牲者に対し追悼の意を込めるとともに、被災地において苦しむ多くの方々や避難を余儀なくされている方々の一刻も早い支援、救済を切に願っております。

三重県知事の震災瓦礫受け入れ表明以来、多くの団体および市民から受け入れ反対の要望書等が知事、伊賀・名張市長宛に寄せられております。これだけ市民の関心の高い事案を地域住民に一言の説明もなしに推し進める事には大いに問題があります。

伊賀には大変大きな最終処分場があり、震災瓦礫及び焼却灰を受け入れれば放射能汚染がまず心配されます。また、伊賀ブランドの米、肉等の風評被害も深刻な問題になりかねません。原発事故で最も心配されるのは、呼吸、食料、土壌の粉塵から体内に入った放射性微粒子による内部被爆です。被爆の人体への影響については、まだまだ不明な点もありますが5年後、10年後に犠牲者が出る事をチェルノブイル原発事故から学ぶべきです。

なにはさておき、伊賀の最大の特徴は豊かな土地に恵まれ、水、空気が綺麗な事です。震災瓦礫を受け入れれば放射能の不安にさらされます。「ガレキを受け入れない」ことは、安全な避難場所と汚染のない野菜などの食料供給を確保することになり、被災地の方々への支援に充分値するものではないでしょうか。これは原発のない三重県だからこそできる被災地支援です。ガレキを受け入れてしまっただけではできなくなる支援です。

震災瓦礫の受け入れには地域住民の反対する多くの声がある現状を鑑みれば、伊賀の特性を活かした被災地支援に特化すべきと考えます。